

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 7 日現在

機関番号：34417

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2009～2011

課題番号：21652042

研究課題名（和文）中国語医療通訳者育成マニュアルの開発

研究課題名（英文）The Development of Manual for Cultivation of Medical Interpreters for Chinese

研究代表者

西山 利正 (NISHIYAMA TOSHIMASA)

関西医科大学・医学部・教授

研究者番号：10192254

研究成果の概要（和文）：医療機関における医師患者間での会話について、汎用性の高い話題を中心としてできるだけ使用頻度の高い言葉を集めて会話集を作り、医療通訳者育成のためのマニュアルを作成した。会話集とともに単語インデックスを作成して、利用者にとって使いやすい構成を工夫した。また、日本語の漢字にはふりがなを、中国語にはピンインを付記することにより、どちらの言語を母国語とする方にとっても読みやすいものとすることができた。

研究成果の概要（英文）：We made the groups of medical conversations between patients and doctors at the medical institutions, selecting broad utility and frequently-used phrases. These conversations were summarized and classified by the contents, and designed to be the manual for medical interpreters cultivation. Simultaneously we drew up word-index for learners to be convenient usage. “Furigana” was added to Japanese Kanji, and “Pinyin” was added to Chinese Character. Thereby this manual could be practical for both Japanese learners and Chinese learners.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	600,000	0	600,000
2010年度	500,000	0	500,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	1,800,000	210,000	2,010,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：医療通訳、異文化コミュニケーション

1. 研究開始当初の背景

現在わが国の人口は高齢化の一途を辿っており、今後さらに生産年齢人口が減少し、高齢化社会を支える労働力が不足していくことが懸念されている。そのため、労働力を確保するために、海外からの労働者雇用を促進することが国の政策として推し進められている。実際、法務省の発表した平成17年末における外国人登録者統計による

と、外国人登録者数は201万1555人と初めて200万人を突破して過去最高を記録し、過去20年間で倍増している。国籍別の内訳をみると韓国・朝鮮29.8%(59万8687人)、中国25.8%(51万9561人)と近隣3カ国で半数以上を占めているが、次いでブラジル15.0%(30万2080人)、フィリピン9.3%(18万7261人)、ペルー2.9%(5万7728人)となっている。このような外国人労働者

数は今後も増加する一方であることが予測される。また、この統計には含まれない不法就労者も多数存在し、その数は 20 万人を超えるという推測されている。

実際の診療の中で一番の問題なのはやはり「言語の問題」とされている(松尾博哉氏、*周産期医学 vol.34 no.2, 2004-2*)。この問題を各医療機関が解決するには、通訳の雇用、派遣通訳または電話通訳の利用、外国語と日本語で記された各種問診票の類の活用などである(小林米幸氏、*治療 Vol.88, No.9, 2006.9*)。ところが、現在わが国では医療通訳が専門職として確立されておらず、その制度化を望む声も多い(松尾博哉氏、*周産期医学 vol.34 no.2, 2004-2*)。外国人が日本で疾病に罹患、あるいは外傷等をきたした場合に医療機関を受診することになるが、短期滞在の外国人の場合、日本語を話すことができるケースはほとんどなく、また、たとえ長期滞在している外国人で、ある程度日本語を用いた日常会話が可能であったとしても、医療機関で交わされる医学的な専門用語について理解するまでには至らないケースが多い。そのために診察場面において十分なコミュニケーションを取ることができず、不十分なインフォームドコンセントしか得られないことが多い。また、日本の医療制度について知識のない外国人に対しては、金銭的なことも含めて制度の説明が必要となるが、各用語が難しいため、説明する人間に十分な外国語能力がなければ、誤った理解から金銭的トラブルに至るケースもある。

外国人が医療機関を受診する場合のこのような問題を解決するためには日本語通訳が必要となる。現在、いくつかの通訳ボランティアグループが、必要に応じて外国人の受診に付き添っている。しかし通訳者が外国語に堪能であったとしても、通常の会話で語られる単語と医学的専門用語の間には乖離が見られることが多く、その医学的専門用語を直訳することはできたとしても、それを外国人が理解できない場合がある。オーストラリアでは人口の約 23%が海外出身者で、種々の文化的背景を持つ移民が多数存在する。そうした背景もあってオーストラリアでは NAATI(The National Accreditation Authority for Translators and Interpreters)という通訳者の資格を国家資格として認めている(松尾博哉氏、*日本医師会雑誌第 133 巻・2 号/2005 年 1 月 15 日*)。わが国においても外国人登録者数の増加を受け、専門職としての医療通訳を確立していく必要性に迫られている。しかし日本には普遍的に制度化された医療通訳システムは存在せず、「資格認定」どころかそれが専門的な技能が必要な仕事であるこ

とすら認識されていない(村松紀子氏、*治療 Vol.88, No.9, 2006.9*)。今回われわれは、医療通訳のスキルの向上並びに普及啓発を目的とした教科書を作成することとした。

2. 研究の目的

通訳ガイド領域における職業文化は古くから存在している。ところが、医療領域において通訳の専門分化は遅れ、最近の医学の進歩や専門性に追いついていない。従って、近年増加している医学領域での医療過誤や訴訟の原因の一つともなる。医療通訳の普及啓発はわが国では急務であり、すぐにでも取りかからなければならないが、これに携わる医療機関はもとより、医療通訳者を養成する教科書や手引き書は少ないのが現状である。

本研究により、医療通訳の中国語領域における基本的なテキストを作成することで、わが国における中国語医療通訳者養成の礎とする。また、普及啓発の一躍となる可能性があり、今後わが国において専門職としての医療通訳が確立されていくことが期待できる。

3. 研究の方法

医療現場において医師、患者、通訳者という役割を振り当て、様々な主訴や場面を想定した医療模擬会話を行い、頻出する単語・語句、ならびに汎用性の高い用語を抽出して、主訴別に会話集を作成する。それを基にシナリオを作成し、日本語と中国語の対訳を行い、日本語と中国語間での通訳の際には、直訳ではなく意識を行い、実際に使用される表現法を用いることを徹底する。

まずハンドブックでは、各診療科で頻用される質問パターンをできる限り多く抽出する。つぎにその中に含まれる日本語特有の表現や微妙な意味合いを、中国人医師を交えて日本人医師・通訳者と議論しながら日常的に良く使用される中国語表現、すなわち辞典の中のみにとどまらない“生きた”中国語へ翻訳する。また同時に中国の医療機関で使用される種々の表現を日本語に翻訳する。それを診療科別、疾患別に系統的にまとめていき、診察の流れに沿ってより実際的で利用しやすいものにする。そして通訳者に必要な医学的説明も付記することにより、通訳者が使いやすい実用的なハンドブックをこの研究期間内に作成する。

わが国では医学用語を中国語に翻訳した専門書は少なく、特に通訳者に理解しやすいものが求められる。外国人対象の医療現場において通訳者は重要な位置を占めるが、現存する専門書では通訳者にとって取り扱いきれない場合がある。今回我々が作成を目的としているハンドブックは、通訳者が使

用することを念頭に置いており、診察場面でよく使用される問診様式について、その質問から医師はどのような情報を得たいと考えているのかを示し、また誤訳が決してないようにするため分かりやすい表現で作成する。また、内科、外科、小児科、産婦人科、精神科、救命救急科等に分けることにより、それぞれの診療科で円滑に通訳ができるように配慮したものにする。監修には中国人医師・日本人医師及び通訳者が携わり、最終的に極めて実用的な書へと収斂させる。また、日本における外国人診療経験の多い医療機関・医師の紹介や、対応言語についても掲載する。更に読者からの提案や意見を受けるため、巻末に電子メールアドレス、ファックス番号、連絡先住所及び電話番号をも記載する。そうして常に内容更新可能な体制を作り、今後の医療通訳育成と発展に貢献できる礎とする。

我々は現在、海外へ移住する日本人の健康状況を主なテーマとして調査研究を行っているが、文化的な差異によって医療サービスが往々にして円滑に進まないことを痛感している。これとは逆に、海外から日本に移住してきた外国人においても同様の弊害が生じている。医療機関において使用される会話の中で問題となる中国語表現を具体的に抽出し議論を重ね、ハンドブックに載せる内容を充実させ、そしてグローバル化が進む我が国において医療通訳を専門職として制度化できるよう継続的研究を継続する。過去に医療通訳について系統的に行った研究はなく、この研究が本分野に黎明を告げるものとする。従来このような通訳ガイド領域の教科書並びにハンドブックは主として言語学者が中心となり、独自の経験から作成されるものが多い。今回我々が作成するものは、医師、看護師、医療秘書、医療通訳者などが、日常のスキルアップトレーニングから生み出される医療系・言語系の研究者が対等に意見をだし、作成されるマニュアルで、コーパス研究を取り入れることにより使いやすい医療の現状に密着したものができると思われる。

また、日本における医療通訳の普遍的な制度化実現に向けた方策として、通訳者の研修制度、トラブル時の責任の所在、利用者の費用負担への意識改革、それを実現可能にするための利用者が有料・無料を選択できる多様なシステムの提供が必要とされる(松尾博哉氏、日本医師会雑誌第133巻・2号/2005年1月15日)。外国人診療の助けとして、多言語ツールを公開しているウェブサイトが20弱存在し、医療通訳のサービス提供や相談を手がけている団体が40施設ほど有り、各種言語に対応できるようになっている。そうした団体のスタッフ

と少なくとも上記勉強会の度に医療通訳制度化に向けて、国内外を含めた今までにあった事例や現在進行形の事例、更には将来起こりうる問題となる事例についての問題提起・議論を行い、今後の医療通訳育成・発展における指針となるよう継続的研究を行う。

4. 研究成果

医療機関における医師患者間での会話について、汎用性の高い話題を中心として、できるだけ使用頻度の高い言葉を集めて会話集を作り、医療通訳者育成のためのマニュアルを作成した。会話集とともに単語インデックスを作成して、利用者にとって使いやすい構成を工夫した。

当初予定していた診察科目別ではなく、シナリオから抽出した疾病別で内科系、外科系、感覚器官、その他(表1)需要の高い項目を抽出し、それぞれの項目についての会話集を作成した。

表1 病名系統別分類

1. 内科系	貧血、蕁麻疹、咳、帯状疱疹、腹痛、めまい、鼻血、肺炎、糖尿病、痛風、胆結石、風邪、十二指腸潰瘍、喘息、高血圧、慢性肝炎、発熱、甲状腺機能亢進症
2. 外科系	乳がん、骨折、腰痛と坐骨神経痛
3. 感覚器官	麦粒腫、中耳炎
4. 歯科系	抜歯、虫歯
5. その他	予防接種、妊娠検査、禁煙、うつ病

日本語の文章中にある漢字にはふりがなを、中国語のそれにはピンインを附記し、日本語・中国語のどちらを母国語とする通訳者にも使いやすい形式とした。また、単語インデックスを作成することにより、単語から会話集をたどれるような検索法を行うことを可能とした。

当初計画した年よりも中国人の外国人登録者が21年では31.1%まで増加し、この医療通訳者育成マニュアルが必要となることを確信している。

また、医療会話シミュレーションをビデオ録画して検討を行う予定であったが、人員の日程調整などの折り合いが困難であり、実現することが出来なかった。それを補うために、日本語を母国語とするスタッフ、中国語を母国語とするスタッフによってシミュレーションをできるだけ多数回行った。それにより、実際に医療機関で話される単語や語句について、日本語ならびに中国語表現を選定していくことが出来た。

現時点では、本研究によって完成した医療会話集をCDROMにまとめ、学習者が各々のコンピューターにおいて閲覧、使用可能な状態としている。将来的には、ウェブサイトからも会話集にアクセスできるような環境を構築して、使用するに当たってより利便性を向上させていく予定であるとともに、内容自体も適宜更新していくことが出来るようにしようと計画している。

なお、当初予定していた日本における外国人診療経験の多い医療機関・医師の紹介や、対応言語について掲載する予定ではあったが、今回のマニュアルには間に合わなかった。

今後も診療科目を網羅できるような内容と手術の解説を含めたマニュアルに継続的に研究を実施していきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計1件)

① 三島伸介、鄭 巍巍、黒田友顯、中谷逸作、田淵幸一郎、西山利正、中国語医療通訳育成に向けての問題点と対策、第15回日本渡航医学会学術集会、2011年7月30日

6. 研究組織

(1) 研究代表者

西山 利正 (NISHIYAMA TOSHIMASA)
関西医科大学・医学部・教授
研究者番号：10192254

(2) 研究分担者

三島 伸介 (MISHIMA NOBUYUKI)
関西医科大学・医学部・助教
研究者番号：70454618

(3) 連携研究者

()

研究者番号：